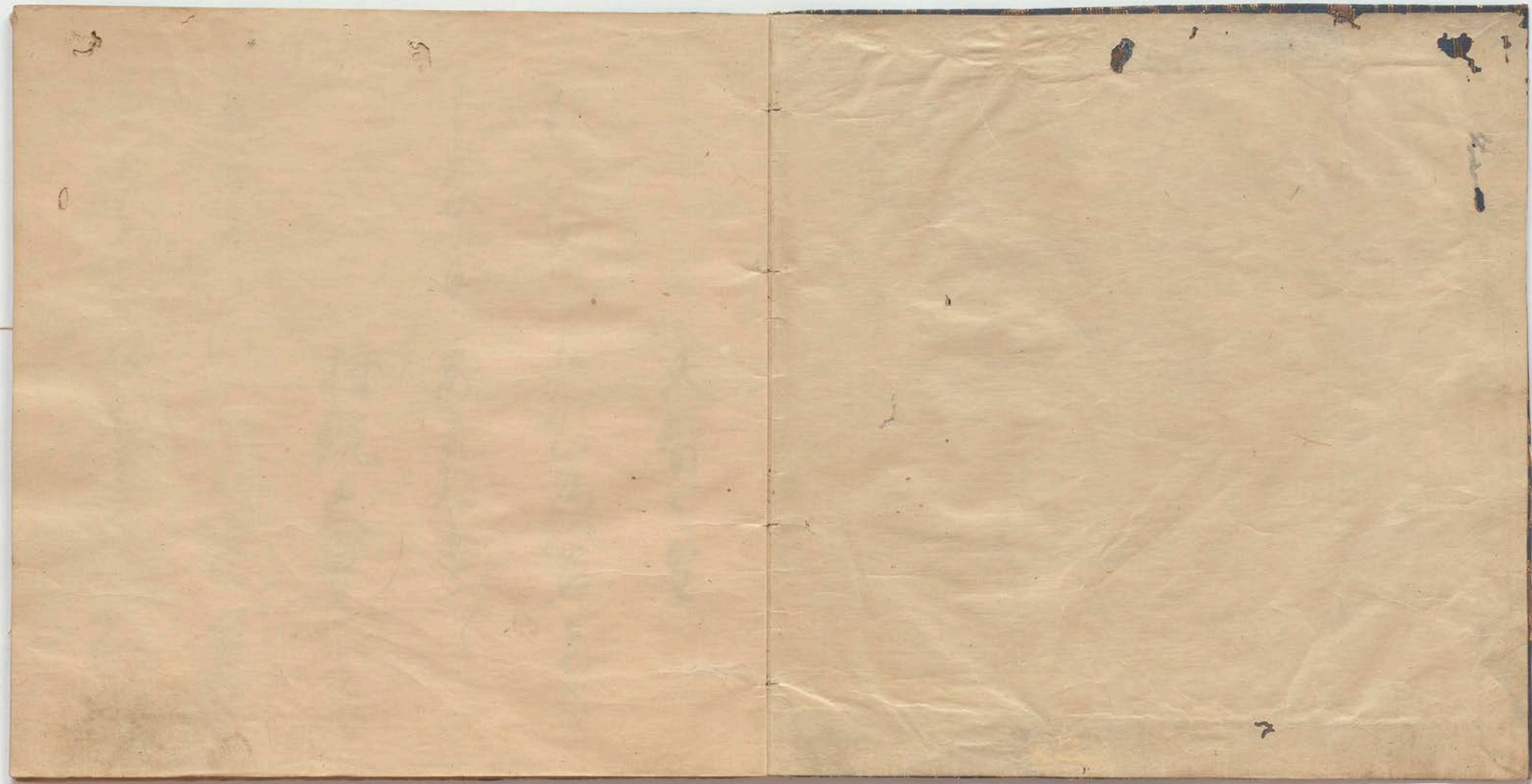




百人一首





天智天皇

秋乃田れりやの唐紙とあは

し衣のあはぬ道つ

持統天皇

まはるあまのしほやしら白あめ

なりとく物あまのしほ

柳平丸

足奥のふきれおのこころ丸の  
まじりてはなれりてはなれり

山色赤人

田籠のしるしにいら出でた白丸の  
もくし高根の雪の降つ

猿丸大吏

おくしよおきもくしよ  
おきもくしよおきもくしよ

中納言夜持

かきよの海を橋よとく霜入  
志新ぶとらねんそ文よき

安陸仲磨

あまたしうゆりうをうたかたか  
しうのころよ出し月うを

喜撰法師

昔んが朝のころとすじ  
しうらんとくをさり

小野小町

花のころうつりあやうき  
しうかたふゆらみあきまに

蝉丸

らむかしのゆきとあき  
ちうもしうを逢坂の宮

糸後尊

和国のつら八十鶴を漕ぎ  
人よいつまよ庭の物守

僧正遍昭

あまのそをそのおもひ  
し女のすくもつらめ

陽成院

筑波林の葉ら落るこみ  
こをそ積りて測らぬ

河原左大臣

しらのお志のこもらすも  
みこをそめあし我のちけくに

光孝天皇

君の御名をよみて  
しるすに  
しるすに  
しるすに

中納言の旨

とてしるすに  
しるすに  
しるすに  
しるすに

左大臣の旨

とてしるすに  
しるすに  
しるすに  
しるすに

藤原氏の旨

とてしるすに  
しるすに  
しるすに  
しるすに

伊揚

おのよひのうらやまの梅の花を  
あはれむ。わが心もあはれむ。

元良親王

俺はさうとらうちの誰彼から  
あつてついでとあつてついで

素性法師

とあらじとてあつてついで長月の  
あつての月をあら出つて

文屋康秀

あつてついでの花の葉をあら出つて  
あつてついでとあつてついで



大江子里

月と花の物とを  
しるふ心のはらけ

菅家

古能古波奴純毛止里阿陪壽

多女氣心

丹麥農仁志黃神濃万尔末身

三條右大臣

みうらう逢坂山のえはら

人書く道あるうらむ

貞信公

小倉の筆は紅筆うらむ

まじりの御業うらむ



坂上毛別

胡弓をたゆめ月をうらまへに  
うし野里の夜きつる白雪

去道列樹

山川よせのそをうらうらと  
あふともあけぬ紅葉女々の

紀友則

久々の公りのまをたまはむに  
志りのうすく花のあはれむ

藤原真風

あふよとと人まじ高砂の  
ねもじりの友あらしむくに

紀費之

くいついんもあつたあつたを  
いふそむいふあつたあつた

清原深頼文

夏れあつたあつたあつた  
雲のあつたあつたあつた

文屋胡康

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

右を

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた



指中納言教忠

あまのそとれ後のふよりぬき  
むし物と思ひよるわ

中納言朝忠

逢事れはまじくあし中  
んまをかきしうらむ

諫徳公

あたりへんあしあし  
かのうらうらふあし

曾祿好忠

あしあしあしあし  
あしあしあしあし

惠慶法師

後之清志道者有風俗之

人してん福故にうまの

源重之

風よここまの源れよの

くまの物とらふはる

大中長能宣明

いふまゝ未だぬかしのう

むのまゝつたつたよと

藤原義孝

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

有原実方御旨

かきつゝにきや洋吹のうき草

うき草のうき草のうき草

藤原道信御旨

あきぬきくく物とるおき

かきつゝあきぬき物とるおき

右大臣道總御旨

あきぬきくく物とるおき

かきつゝあきぬき物とるおき

儀同三司御旨

あきぬきくく物とるおき

あきぬきくく物とるおき



大納言公任

淡の東の海をくぐりて女官の

ふしうなまはしめられた

和泉式部

あしきくしむたがのうらま

とくしむのうらまをり始

信武部

あしきくしむたがのうらま

とくしむのうらまをり始

大藏之任

あしきくしむたがのうらま

とくしむのうらまをり始

赤染束の

長とつそ折さう物とよまは

い物さうの月とさう

小式部内侍

さうさうのさうさう

さうさうのさうさう

伊勢大輔

いさうのさうさう

さうさうのさうさう

清少納言

さうさうのさうさう

さうさうのさうさう



周防内務

長年のあつたるのち  
心もわづらひしを惜まじ

三條院

あつたるのち  
心もわづらひしを惜まじ  
月か

能周法師

あつたるのち  
心もわづらひしを惜まじ  
月か

良暹法師

あつたるのち  
心もわづらひしを惜まじ  
月か

大納言経信

又さししし田ん子し高の道  
あーのうらや。娘をそめ

松子内親王家紀伊

よさあまのうらみのあーあ  
かきや袖のぬきししす

權中納言信房

高外れおのうらまはる  
よさあまのうらみのあーあ

源備前守

うらまはるのうらまはる  
らあーうらまはるのうらまはる

百尔基俊

らまのくまのせとあまの  
あまのくまのせとあまの

法持のくまのせとあまの

初古濃半羅古紀出天表礼者之方  
雲丹尔万与瑞冲津新良面見

崇徳院

濃とくまのせとあまの  
あまのくまのせとあまの

源忠昌

あまのくまのせとあまの  
あまのくまのせとあまの

右京大夫源頼朝

秋をよむるのこころ

あきあきのこころ

待賢の院

かゝらぬ心もあはれ

うらみと別れ物と

後徳太子

子親うらみ

うらみと別れ物と

道因法師

思ふ儀もあはれ

うらみと別れ物と

皇太后宮人後放

世中よりらたよれ思のり

のちもしとてする

蘇東清揚物長

あしはしあつたあつた

うしうしうしうし

後惠法師

あしと物思はたのり

福のまゝにたよれ

西行法師

あしと物思はたのり

のちもしとてする



麻道法師

しつゆはあまのこゝろをたのむ  
いづれかたのこゝろをたのむ

白糸つ院別当

かゝるはあまのこゝろをたのむ  
いづれかたのこゝろをたのむ

式子内親王

かゝるはあまのこゝろをたのむ  
いづれかたのこゝろをたのむ

殷富つ院大輔

かゝるはあまのこゝろをたのむ  
いづれかたのこゝろをたのむ

後集抄抄紙を改書

養のや書紙のてし一紙  
教くつまをらと福也

二條院讃歌

吾袖いらかかまてわ沖分  
人いもらなつるはな

徳念右大臣

世中こころのよきも物あさる漕  
あまのよき福つてふり

参議雅経

こちのこころ秋をささるあ  
ゆきふくまなうのなり

前大僧正の御

ちうりやうの御書に御ちうりやう

御書に御ちうりやうの御

入る前大僧正の御

花こそ御書に御書に御書に

もあつたよの御書に御書に

権中納言の御書

おぬいよの御書に御書に

御書に御書に御書に御書に

後二位の御書

おせよの御書に御書に御書に

おせよの御書に御書に御書に

海鳥羽院

くわいぶつゐん

あまのつばき

順徳院

あまのつばき  
あまのつばき  
あまのつばき

あまのつばき

廣福在衡高任明  
比頁一有  
如



承親訂三條版  
廣元  
壬子廣  
頁一有  
每



跡見学園女子大学短期大学部図書館

〒03(3943)1368



1001932076

